

1 実施概要

テーマ	地震・津波災害から命を守ろう
外部指導者	秋田大学地域創生センター 准教授 鎌滝 孝信氏
実施日時	平成25年7月12日（金）10時50分から12時20分まで
実施場所	土崎中学校 体育館
参加者	生徒143名（1年生） 職員8名 土崎地区町内会役員 17名

2 実施内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 校長あいさつ	3	○事前に担当者と打ち合わせを行い、準備するもの、留意事項について確認した。 ・生徒の防災意識が高まるような講話内容にする。 ・映像の活用や演示実験を行うなど、生徒の関心を高める工夫をする。
2 講話（プロジェクターを使用） ・地震が発生する仕組み ・津波が発生する仕組み ・過去に起こった秋田県の地震 ・地震、津波から命を守るために ・津波の様子（演示実験）	75	
3 質疑応答	10	
4 生徒代表お礼の言葉	2	
	計90	

3 参加者の感想

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の講話を聞いて、自分の命は自分で守らなければならないということを改めて強く感じました。 ・津波災害から身を守るために、事前に非常食を準備する、地域にある高い所を確認しておくなど、今からできることがたくさんあると思いました。 ・普通の波とちがって、津波はたった50cm位の波でも大人が流されてしまうほど強い力があることが分かり、小さな津波でも避難しなければならないと思いました。 ・津波注意報や警報がでたら、素早く少しでも高い所に逃げるのが大切だということが分かりました。 ・「地震なんかで死なない」という強い意志をもつことが、自分の命を守ることにつながるというお話が心に残りました。 ・ハザードマップは、どこに津波が来るのかばかりでなく、どこが一番安全なのかを見るために活用する方法があることが分かりました。 ・地震が起きたときにどこに逃げればいいのか、また、危ない場所はどこなのかを事前に調べておく必要があると思いました。 ・自分の命を守るためには、過去にどのような地震が発生し、どんな被害があったのかを知っておくことが大切だと思いました。 ・災害が発生しても落ち着いて行動できるように、普段の生活から災害のことを意識していきたい。 ・5分の準備でこれから先何年も生きる命を救えるのなら、絶対準備しようと思いました。
----	---

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害はどうしても起こってしまうことなので、いつ来てもいいように家の中の物を再チェックしたり、逃げる場所を家族で確認したりしたいと思いました。 ・何があっても生き抜くという強い気持ちが被害に遭う確率を低くするという言葉が印象に残りました。 ・宿題として出された災害が起きたらどこに避難するのかについて、今日家族で話し合いたと思います。
----	---



4 成果と課題

成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 動画や画像の視聴覚機器を活用しながらの説明だったので、生徒は75分間という長時間の講話に集中して耳を傾けることができた。 2 津波の様子が分かる実験装置を準備し、実際に生徒に示すことで、津波のメカニズムへの理解度が高まった。 3 命を守るためには、「自分の命は自分で守る」「地震や津波なんかで絶対に死なないという強い意志をもつ」ということが大切であることが生徒の心に強く残ったようである。 4 危険箇所を確認すること、地域にある高い所を確認すること、災害が起こった際の避難場所を家族で確認しておくことなどを学び、防災意識に高まりが見られた。 5 外部指導者を活用しての講話会を実施することも含め、これからの防災教育の在り方について考えるよい機会になった。
課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 講話会を通して必要最低限の知識を習得し、防災への意識が高まりが見られたものの、生徒が活動する場面が不足していたので、「実践力が身に付いたか」という点ではやや不十分だった。中学1年生という発達の段階を踏まえ、講義全体の構成について事前に検討する必要がある。 2 本事業による講話会は年度当初の予定になかったこともあり、事前事後の学習を十分に行うことができなかった。来年度以降、学校安全教育の指導計画の中に位置付け、事前事後の活動も充実させていきたい。 3 避難訓練や理科等の授業との関連を図り、学習の効果を一層高めていきたい。